

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

令和5年4月に小学校6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部分であり、学校における教育活動の一側面にとどまります。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

保護者・地域のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけるようお願いいたします。

1 調査結果の概要

教科学力

国語の学力については、「知識・技能」に関する問題が8ポイント、「思考・判断・表現」に関する問題が7ポイント全国平均値を下回った。

算数の学力については、「知識・技能」に関する問題が4ポイント、「思考・判断・表現」に関する問題が7ポイント全国平均値を下回った。

学習に対する興味・関心

国語・算数共に平均値に近い傾向が見られた。特に、国語や算数が「好き」「大切だと思う」と肯定的に感じている児童が平均値よりも5～8ポイント程度上回った。

規範意識・自己有用感

規範意識については、全体としては平均値を上回る意識であった。「いじめはどんな理由でもいけない」ことについては、平均値とほぼ同等であり、「人が困っているときは、進んで助けたい」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童が平均値より5ポイント以上、上回った。

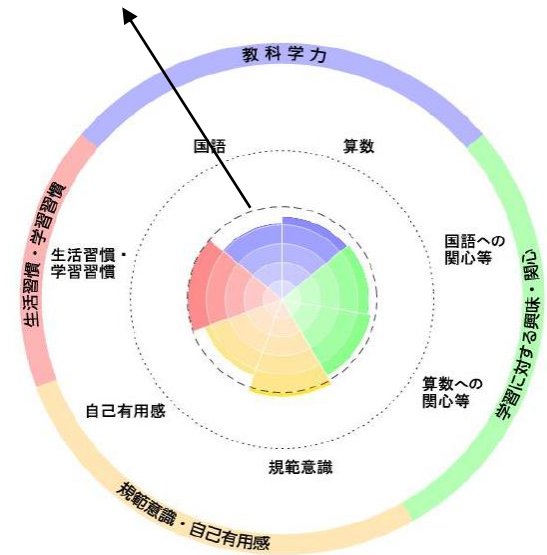
自己有用感については、「将来の夢や目標をもっている」ことについては平均値を8ポイントほど下回った。また、「自分にはよいところがある」と考えている児童は平均値を10ポイント以上、上回った。

生活習慣・学習習慣

生活習慣については、規則的な起床時刻、毎日の朝食の摂取などの様子を見ると、全体的には規則正しい生活習慣が送れていることが分かった。一方で、就寝時刻については、毎日の中で定まっていない児童が一定数見られた。

学習習慣については、自分で計画を立てて家庭学習を行っている児童が平均値よりも多く、家庭での学習時間もそれぞれ確保している様子も見られた。一方で、自分で家庭学習をほとんど行っていない児童もあり、児童の意識に二極化があることが見られた。

点線は平均値



2 本校児童の課題及び今後の取り組み

【今回の調査で見えてきた課題】

《国語》

- ① 漢字を文の中で正しく使うこと。(知識・技能)
- ② 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。
(思考・判断・表現)

《算数》

- ① 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること。(知識・技能)
- ② 知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できること(思考・判断・表現)

《生活面》

- ① 好んで読書をしている児童とそうでない児童の二極化が見られること。
- ② 家庭での学習習慣や生活習慣に二極化が見られること。

【今後の取り組み】

《学習面》

- ・児童が学習の中で、文の意味や場面を考えながら漢字を覚えたり活用したりできるように指導をする。漢字だけでなく、基礎となる知識・技能がしっかりと定着するよう、繰り返し学習したり復習したりできるように支援をしていく。【上記課題の国語①】
- ・文章の内容を理解する上で、図表のどこに着目するかを自分で考えたり、明確に示したりして、必要な情報を見つけられるようにする。国語科に限らず、自分の考えの根拠となる資料を見つけたり、考えを伝えるために活用したりすることを、他教科でも重視して学習活動を組んでいく。考えを伝えるときには ICT 機器も効果的に活用する。【上記課題の国語②】
- ・日々の算数科授業やスキルタイムの中で、計算技能が定着するように、時間を十分に確保する。答えをもとめるだけでなく、より簡潔に計算できる方法について考えたり、式を用いて自分の考えを伝えたりできるようにする。【上記課題の算数①】
- ・自分の考えを、式や図を用いて表現する学習活動を授業のなかで取り入れて、相手にきちんと伝えるにはどのようにすればよいか、考える機会を設ける。【上記課題の算数②】

《生活面》

- ・学校図書館をより一層活用し、朝読書や国語を中心とした読書活動の充実を図る。【上記課題の生活①】
- ・生活リズムを整えることの大切さや心身の健康について、保健科での学習や日々の生活、定期的に行う身体計測の中で指導をする。また、家庭と情報共有し、心身共に健康的な生活習慣の啓発を図る。【上記課題の生活②】
- ・全校で取り組んでいる家庭学習について、より一層保護者との共通理解を図る。【上記課題の生活②】